

3. 1 1 後の運動参加

—— (2) 「ふつうの市民」はいかにしてデモ参加者になったか——

中京大学 松谷 満

1 目的

第1報告では、社会的属性、社会意識、そして震災のインパクトと運動参加との関連を検討した。第2報告では、運動参加者がいかにして参加に至ったのか、その動員の経路を明らかにする。本調査の中心的な問いは、「なぜ大規模な抗議の波が復活したのか」である。確かに、人びとの（リベラル・左派的な）政治的志向性や震災にともなう剥奪感・不安感が参加を促したとの説明は可能だろう。

しかし、人はより直接的なきっかけなくしてはデモ参加という「ふつうではない」(unconventional) 行動には至らない。しかも、主たる動員の経路とされてきた（左派）政党や労働組合といった中間集団はきわめて弱体化している。主要な情報伝達回路であるマスメディアは原発や安保といった「 이슈」について報じることは多かったが、「運動」について報じることはきわめて少なかった。では、3.11 後、新たに運動に参加した「ふつうの市民」はどのようなきっかけでそこに至ったのだろうか。

本報告では、3.11 後に新たに参加した者とそれ以前に参加経験があった者との比較を中心に、新たな参加者の動員経路における特徴を明らかにする。近年の新しい運動を対象とした研究を参照するならば、インターネット（SNS 含む）がその経路として重要な役割を果たしたという仮説が想定されるが（Anduiza et al. 2014; Giugni and Grasso eds. 2015; Klandermans et al. 2014）、それのみで人は動員されないとの指摘もなされている（小熊 2016）。既存のメディア、ネットメディア、そして対人的なネットワークがどのような役割をどの程度果たしたのか、実証的に明らかにする。

2 方法

第1報告と同じデータを用いる。有効回答のうち、反原発デモ、反安保デモのどちらか、もしくは両方に参加した者を分析対象とする。

3 結果

（二変数間の暫定的な）分析の結果、以下のことが明らかになっている。

- (1) 原発と安保とで動員の経路に大きな違いはみられない。
- (2) はじめてデモに参加した者は「家族・友人・知人に直接誘われた」が相対的に多く、反原発デモの場合のみ、「SNS から情報を得た」も多い。
- (4) オールド・メディア（新聞・テレビ）からの情報取得は高年層のみで重要な経路となっている。
- (3) 反原発デモ参加経験がある場合、反安保デモへの参加はネットでの情報取得による場合が多い。

4 結論

動員経路は直接的接触によるものが大きいですが、インターネットがそれをうまく補完する関係にある。反原発デモの参加経験が後のデモの動員障壁を低くしている。

文献：小熊英二，2016，「波が寄せれば岩は沈む——福島原発事故後における社会運動の社会学的分析」『現代思想』44(7)． Anduiza, E., Cristancho, C., & Sabucedo, J. M., 2014, "Mobilization through online social networks: the political protest of the indignados in Spain," *Information, Communication & Society*, 17(6)． Giugni, M. and M. Grasso eds., 2015, *Austerity and Protest*, Ashgate． Klandermans, B. et al., 2014, "Mobilization without organization: The case of unaffiliated demonstrators," *European Sociological Review*, 30(6)．